

摂食嚥下 ワーキンググループ NEWS!



2023年 3月号 第62号
発行：摂食嚥下WG事務局

令和4年度の摂食・嚥下WG（渥美Dr）

府中療育センターにおける摂食について、どのような状況であっても対応すべき問題は常に存在します。しかしここ数年は新型コロナ流行により摂食WGの活動も制限されることが多くなり、必要な対応が遅れることもありました。摂食WGメンバーの意見も聞きながら、今後どのように進めていくべきか、優先してやるべきことは何かを考えていきたいと思ひます。



★摂食嚥下WGメンバーに、歯科医師が加わりました！★

本年度より歯科を担当しています大房と申します。

これまでは、大学の高齢者歯科学講座で主に中途障害に対する摂食嚥下リハビリテーション診療に従事してきました。また、生理学的手法を用いて嚥下のメカニズムを解明する研究も並行しておこなってきました。多少ですが、嚥下機能に関してこれまで勉強してきましたので、摂食WG活動の一助となればと思ひます。

口腔機能は嚥下5期の準備期/口腔期で大きな役割を占めており、摂食嚥下機能において重要な機能です。食塊形成には歯、咀嚼筋、舌、唾液、口唇の機能が必須です。嚥下反射に必要な喉頭挙上には、顎骨と舌骨をつなぐ舌骨上筋群（咀嚼筋の一部）が重大な役割を担っています。これら口腔機能は発達の過程で獲得します。

乳児特有の口腔構造と原始反射、単純な口腔運動により哺乳します（乳児型嚥下）。離乳期に徐々に歯が萌出し、複雑な咀嚼運動を獲得します。そして1.5Y～2.5Y程度で咀嚼嚥下機能（成人型嚥下）を獲得します。しかし、重症心身障害児・者は正常な形態・機能獲得をしていないことが多いと思ひます。疾患の種類やその重症度、障害を負った時期によりそれらは大きく異なり、各々違うところが難しいところです。したがって、絶妙なバランスの上で形成された摂食嚥下機能を維持することが最重要となります。そのためには、皆さまの“気づき”が大切です。日々関わっている皆様が最も“目利き”できるのです。変化に気が付いた際には嚥下WGでぜひご相談ください。

また、日々の口腔ケアも重要です。口腔は多数の細菌が存在しており、プラーク中の細菌数は便よりも多いといわれています。歯周病菌（グラム陰性桿菌）は誤嚥性肺炎の原因菌ですし、歯周病は糖尿病や高血圧、脳梗塞と直接的に関係があることも解明されています。口腔ケアは嚥下機能を向上させるという報告もあります。口腔ケアは命とQOLを守ります。今後は口腔の専門家として積極的に患者様に関わっていければと思ひます。私もまだまだ勉強不足です。皆さんと勉強していけたらと思ひます。これからよろしくお願ひします。



★センター祭りの取組★

今年度のテーマは『食形態』。WGメンバーを2つのグループに分けて「やわらか食」と「ミキサー食」についてまとめました。それぞれ食形態の特徴や作り方、どのような利用者さんに適しているかなどを紹介しています。WGの過去の勉強会の資料を確認したり、さらに各自が調べて内容を深めました。そして管理栄養士や調理師のアドバイスを受けながら、簡潔かつわかりやすくまとめてあります。確認のクイズも利用者と共に楽しめるよう工夫がされています。1Fエレベーターホールに展示してあります。

